

おやこカフェ“color leaf” ～北大路周辺公園マップ公開イベント～

活動フィールド：北大路周辺

代表者所属：
教育学部教育学科

● 活動概要

本活動は、地域子育て支援の一環として、子どもや保護者が過ごしやすい公園をリサーチし、その情報を公園マップアプリのコンテンツとして作成します。また、その公開イベントとして、公園マップ及びその他の子育て支援情報を提供できる期間限定のカフェを開設することで、子育て情報の提供のみならず、保護者同士の交流を図ることを目標にして活動を行っています。

● 活動内容

11月6日(水)に11人で大宮交通公園に調査に行きました。
11月13日(水)～11月18日(月)にかけて、8個の公園（上堀川公園、菖蒲園公園、紫野柳公園、船岡山公園、紫野宮西公園、扇町児童公園、玄武公園、むくのきちびっこひろば）に2名ずつ調査に行きました。
公園の調査では、遊具の種類やトイレの有無、自然物や公園の周りの環境などを保護者の目線に立ちながら調査を行いました。また、学生目線でどんな遊び方ができるのか、危険な場所はないかなども考えながら調査を行いました。

11月26日(火)ごろからそれぞれが担当する公園のマップを作成しました。

その後、1月にカフェの準備を行い、3月5日(水)にマップの公開イベントとしてカフェを実施し、来てくださった方に公園マップアプリを紹介することができました。



大宮交通公園でのフィールドワークの様子



上堀川公園でのフィールドワークの様子

● 活動成果及び獲得した学び

公園でのフィールドワークを通して、現在の公園の状況や公園を利用している親子の姿などを知ることができました。また、親子が過ごしやすい公園とはどのような公園なのか、どうすれば公園の魅力をわかりやすく親子に伝えることができるかなどを改めて考えるきっかけになり、学生にとって学びの多い活動でした。

マップアプリでは、アプリを活用されている方も情報の入力が可能なので、親子が実際に公園に行った際の情報や、季節ごとの情報（桜がきれい、銀杏の木があるなど）を後から追加することができ、より新しい情報の共有や保護者目線、学生目線、地域の方の目線など様々な角度からの情報の共有が可能という点で地域の子育て支援に貢献することができるのではないかと考えています。

マップアプリの公開イベントでは、子育て情報の発信だけでなく、保護者同士が交流しながらほっと一息つくことができるように計画を立てました。保護者同士の交流の機会を作ったり、保護者の休息の場所を作ったりすることで、子育ての孤独感や不安を少しでも和らげることができると考えています。

そして、この活動を通して大谷大学は子育てをしている方々に協力していきたいという前向きな気持ちが地域で子育てをされている方々に届き、少しでも地域全体で子育てを見守り、協力する温かい雰囲気づくりの第一歩になればと考えています。

多文化親子交流会

—日本・世界の遊びを通じて多様なルーツを持つ親子を繋げる—

活動フィールド：大谷大学を中心とした京都市北区

代表者所属：
教育学部教育学科

● 活動概要

2014年に改訂された「京都市国際化推進プラン」では、外国籍市民を始めとする全ての人々が暮らしやすく、活躍できるまちづくりの推進が目標として掲げられている。この目標を達成するためには、外国籍の親子が安心して生活できる環境を整備する必要がある、子育て支援の充実もその1つであると言える。しかしながら、外国籍親子を対象とした子育て支援は、京都市国際交流会館や京都府国際センターなど限られた場所でしか行われておらず、本学が所在する京都市北区においては皆無である。

そこで本活動では、幼児教育コースが取り組む子育て支援活動の一環として、「多文化親子交流会」というテーマのもと、日本や世界の遊びを通じて多様なルーツを持つ親子を繋げる場を企画・運営することを目的とする。また、自分達の専攻する幼児教育の分野の1つである遊びを調査し、実践することで、さらに学びを深め、将来に活かすことのできる知識や経験の充実を図りたいと考えている。

● 活動内容

- ・11月30日（土）（場所：大谷大学4号館）

参加者：11人（子ども6人/大人5人）

カップやロンドブリッジ、虹色泡遊びなど、事前に調べて準備していた世界の遊びを学生と親子で楽しんだ。また晴れていたのもので、4・5号館間の芝生でピニャータをした。来てくださった親御さんに、子育ての悩みを聞く機会も設けられた。



11/30 スティッキーゲーム

- ・12月14日（土）（場所：大谷大学4号館）

参加者：5人（子ども3人/大人2人）

雨で来てくださった方は少なかったが、1回目と同様世界の遊びを学生と親子で楽しんだ。1回目の課題点からアンケート用紙を作り、親御さんの子育ての悩みを書いてもらった。



11/30 虹色泡遊び



12/14 クウェペナ



センサリーバッグ



ピニャータ

● 活動成果及び獲得した学び

イベントの広報活動として、チラシを作成し、大学近隣の保育園や幼稚園に配布したが、実際のターゲットであった「外国にルーツを持つ親子」にどれだけ情報を届けられたか分からない。ただ、外国にルーツを持つ親子が1組参加してくださり、話や悩みを実際に聞くことができたため、計画当初の見込みほど大きなものではないが、成果はあった。また実際に親子と関わり、話をする中で、具体的な悩みを知ることができ、外国にルーツを持つ親子が実際に求めている子育て支援について、考え、話し合うことができた。

滋賀県湖北地域における民俗文化の記録

活動フィールド：滋賀県長浜市

代表者所属：
文学部歴史学科

● 活動概要

本活動は滋賀県湖北地域で行われる二十二日講、御越年法要、鏡割り御講といった一連の民俗文化に関して調査を行う。全国的にみて希少な地方宗教民俗を記録する事を目的とし、フィールドワークによる実地調査を主軸にして同地域の民俗文化に関する情報の収集、発表を実施するものである。

● 活動内容

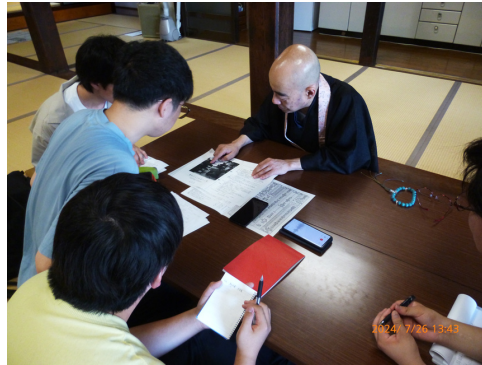
- 7月25日(木) 4名で大谷大学総合研究室にて事前学習会を開催。
- 7月26日(金) 5名で滋賀県長浜市浄願寺にてフィールドワークを行う。
- 10月31日(木) 1名でRADIOMIXKYOTO・大谷大学ハッピーアワーで調査内容を発表。
- 11月24日(日) 4名で滋賀県長浜市満徳寺にてフィールドワークを行う。
- 12月7日(土) 5名で大谷大学オープンキャンパスにて調査内容を発表。
- 12月23日(月) 2名で滋賀県長浜市井口会議所でフィールドワークを行う。
- 2月10日(月) 2名で大阪FM・KYOTOFLAPにて調査内容を発表。



オープンキャンパスにて調査内容を発表



御越年法要



滋賀県長浜市浄願寺にて聞き取り調査



滋賀県長浜市満徳寺にて聞き取り調査

● 活動成果及び獲得した学び

当初の見込み通りの成果が得られた。計3回のフィールドワークを行うことが出来た。3回とも2時間近くに及ぶ調査ができ二十二日講についての調査を大きく進めることが出来たと実感している。また、発表活動についても2回のラジオによる発表と1回のオープンキャンパスでの発表を行うことが出来た。現在3回分のフィールドワークの報告書を冊子にまとめた。

商店街を活性化させよう！

Region and Tourist Connection

活動フィールド：西陣麦酒
ウッドミルブルワリー京都

代表者所属：
社会学部現代社会学科

● 活動概要

西陣商店街の活性化、クラフトビールの魅力発信（スタンプラリー、クイズ、ハロウィンイベント）

● 活動内容

京都の西陣の街を活性化させることを目的とし、西陣麦酒さんとウッドミルブルワリー京都さんにて、来てくださったお客様を対象に西陣に関するクイズやハロウィンの映えスポットを作成し魅力を発信した。

①10月20日（土） クイズ・映えスポット 参加者54名

ウッドミルブルワリー京都

初日だったが、お店の方が別のイベントをやっていたこともあり、4日間の中で最も賑わった。子ども連れの方も多く、外国人の方も数名来られた。ハロウィンの前であったため、ハロウィン仕様に飾り付けをし、クイズにも多くのお客様が参加していただけたため、非常にやりがいのある1日だった。

②10月26日（日） クイズ・映えスポット 参加者29名

西陣麦酒

2日目はハロウィンの直前ということもあり、ハロウィンの飾り付けと映えスポットを用意した。この日は客層が様々だった。家族で来られ、大人の方はクイズをしていただき、お子さんは映えスポットに興味を持ってくださった。映えスポットで撮った写真をさしあげるとお客様は喜んでいて、作ってよかったと感じた。

また、外国人観光客の方も来られ、クイズに参加して頂いたが、外国人の方にはクイズ内容が少し難しく、ジェスチャーを混じえながら説明をし、回答してもらった。

③11月9日（土） クイズ 参加者33名

ウッドミルブルワリー京都

雨天が心配されたが、当日はなんとか晴れてお客様も賑わった。1日目よりも私たちが参加した時間は短かったが、短時間で多くのお客様が訪れたと感じる。この日はグループで来られたお客様も何組もあり、お客様同士でクイズの勝負をするなどして、ビールを飲みながらクイズを楽しんでいた。ただけた。

④11月16日（土） クイズ 参加者18名

西陣麦酒

2日目のイベントで仲良くなったお客様が、4日目もイベントに来てくださった。常連客の方も多く、地域の方と話すことにも慣れてきて、自分たちから積極的に話をすることができた。

また、私たちがクイズを出して京都や西陣について知ってもらうだけでなく、お客様から西陣のお店やイベントについても教えていただけることができ、新たな知識を得ることが出来た。



西陣麦酒での活動の様子



ウッドミルブルワリー京都での活動の様子

● 活動成果及び獲得した学び

私たちは4日間イベント行い、計134名のお客様に参加していただいた。

「西陣をクラフトビールの街に」という連携先の思いと、「地域を活性化したい」という私たちの思いが1つになり、良いイベントにできたと思う。このような機会が初めてで初日は緊張していたが、回数を重ねるごとに積極的にお客様とコミュニケーションをとることができた。クイズを行う中で、地元の方でも初めて知る内容もあり、クイズを参加後に「勉強になったよ、ありがとう」「地元に住んでるけど知らなかった」と声をかけてくださり、西陣の魅力について知ってもらえたことを実感できた。外国人の方にも英語版のクイズを行い、京都や西陣について知ってもらう機会となった。

（次ページへ続く）

私たちは、多くのお客様に来ていただくために、お店の前に立ち、西陣や京都に関するクイズをやっていることなどを伝え、集客に繋げた。そこで、西陣という街の魅力を感じてもらい、「楽しかった、また来たい」と思ってもらえるように笑顔でコミュニケーションを取り、盛り上げた。

しかし、外国人の方にとっては難しい内容であったため、もっと外国人の方に寄り添ったクイズの内容を作成すべきだったという今後の改善点も見つかった。クイズに参加することによって西陣の歴史や文化を楽しく簡単に学んでいただいたこともプロジェクトのやりがいを感じた大きな一つだが、自分たちが考えたクイズの景品も西陣の特産物であり、参加者が西陣の景品を喜んでいたことが最もやりがいを感じた。

プロジェクト全体を通して、一から自分たちのアイデアを形にすること、企画を実行に移すことの難しさや楽しさを感じた。特に、打ち合わせを重ねながら日程を決めることや、イベント関係者と協力してチームとして成功を目指すことは想像以上の大変さがあり、チームワークの重要性を実感した。また、限られた時間と予算の中でどのようにイベントを盛り上げ、地域の魅力を伝えるかを考えることは、発想力や創造力を高める良い機会となった。地域の方々とのコミュニケーションの取り方にも気を配ることを実際に行うことでその難しさにも気づいた。地域活性化に向けたイベントの企画運営に必要なスキルを身につけただけでなく、地域の方々とのつながりの大切さと、協力し合って一つの目標を達成する喜びを深く理解することができた。

今回、この地域連携プロジェクトを終えて、私たちは自分たちで考え、行動する積極性や主体性を身につけることができ、多くの方と話すことでコミュニケーション能力の向上にも繋げることができた。

アイスクリームをつくろう

活動フィールド：京都市北区の児童館

代表者所属：
教育学部教育学科

● 活動概要

アイスクリームをつくる際には、アイスボールを使用して楽しくアイスクリームをつくることを目的として活動を行っていった。

そして、アイスクリームをつくって食べることのほかに科学的なことに児童たちが気づきおもしろさについて知ることとも内容として含むこととした。

● 活動内容

活動のはじめにおいて、アイスクリームをつくる前にアイスクリームのできる仕組みについて児童たちに考えさせていくという簡単な授業の導入を行って児童の科学知識を育てることを目的に活動をした。

活動中においては、児童と大学生を中心となってアイスクリームづくりを行った。その際に、班においては大学生のリーダーを設置し、行った。

また、地域の人々との関わりをもっていくために、地域の児童館などの協力を受け、児童館の協力体制の中の安全管理に特に注意をはらいながら活動を行った。

空いた時間においては児童と手遊びのゲームを行った。



アイスクリームの盛り付け



アイスクリーム試食の様子

● 活動成果及び獲得した学び

アイスクリーム作りを通して、大学と地域と子どもたちが一体となって楽しい時間をつくりだすことができるという成果が得られた。学部の学生にとっては、大学内でのキッズキャンパスをはじめとするイベントに縛られず、大学外でのイベント実施によって大学内では培うことのできない経験値を体感するといった成果を獲得できた。地域においては、大学生との接点が多くはないなかこのような取り組みをすることで、新しい接点をつくるという成果があったと想定される。また、大学の広報や魅力発信につなげることもできたと思う。子どもたちにおいては体験活動をすることで科学的な知識、人間関係の育成、異年齢交流の経験、協力することの楽しさ、協働的学びといったようなことが成果としてあったと現場の子どもたちが楽しいなどの声があったことから成果としてあげられる。

大谷大学を中心として地域に貢献していこう

～コミュニティ食堂の開催によって孤食の解消を目指す～

コミュニティ食堂「GOEN」

活動フィールド：大谷大学

代表者所属：

文学部真宗学科

● 活動概要

本活動は大谷大学を中心として地域社会に貢献することを目的として、コミュニティ食堂を月2回定期開催し、北大路を中心として生活されている老若男女を問わない方々の集える場所を作り、現在孤食をされている人々が大谷大学を中心に様々な年代の人々と関われるコミュニティの形成を図っていくものである。この活動は地域活性化を図るものだけでなく、学生の活性化も図っていくものにしていく。

子ども食堂ではなく”コミュニティ”食堂である。

＜コミュニティ食堂とは＞

→老若男女問わず集まり、同じ食事をし、同じ体験を共有しながら互いの関係を築き、新たな出会いや繋がりを作ることが出来る食堂

● 活動内容

○GOEN食堂の魅力（活動内容）

1. コミュニティ形成ができるシステム
 - ・くじ引きにより、どこのテーブルに座るかを定める、GOEN食堂の出遇いの場を創出した。
 - ・コミュニケーションを図った上で食事ができるようどの世代の人でも楽しめるゲームを毎回、ご飯を提供する前に行った。
 - ・テーブル係という役割を作り、1テーブルに1人学生スタッフが付け、会話の補助・安全管理を行った。
2. 部活動イベント（大谷大生の魅力を発信する場）
 - ・毎回大谷大学のサークル・部活動とのコラボイベントを実施し、学生の魅力を地域の方に向けて発信した。
3. GOEN食堂恒例の手作りカレー
 - ・毎回カレーライスを50人分、国産の食材だけを使い学生のみで手作りして提供した。
4. 地域の方、学生スタッフの声が反映されるシステム
 - ・毎回来場者の方にアンケート用紙の記入をお願いし、その内容を基に当日の片づけ終了後、全体で反省会を実施した。

○部活動イベント コラボ先紹介

- ・書道部 ・スポーツチャンバラ同好会
- ・空手部 ・軽音部 ・手芸サークル
- ・アメリカンフットボール部 ・硬式野球部



書道サークルによる活動発表の様子



北大路商店街特別企画の様子

● 活動成果及び獲得した学び

GOEN食堂は、7月20日（土）の初回開催から合計12回開催してきた。

- ・合計来場者数は、360名
- ・平均来場者数は、30名

これまでの来場者の年齢幅は、0歳～82歳であり、GOEN食堂が目指した老若男女問わず集まれるコミュニティが達成できたと感じています。また、高校生や中学生も多く参加していただき、大谷大学の雰囲気や学生の魅力を知ってもらえる機会としても、充実しておりました。そして、学生と来場者、年代を問わない来場者同士のコミュニティ等、本当にたくさんのコミュニティが創られてきました。

次に部活動イベントについてです。この企画に関しては、本当に画期的な企画であったと感じております。地域の方々、部活動・サークル活動をされている学生、どちらにおいても貴重なイベントであったと感じております。また、当初計画では、「浄土真宗の教えに触れられる場として垣根を超えた教化活動の一環を担うことができる」と挙げておりましたが、これに関しては何もしませんでした。それは、子ども食堂を運営するにあたり特定の宗教団体を活動の色として出してはならないからです。ですが、私も含めメンバーにおいて多数の学生が真宗学科の学生であります。寺族の学生が多数在籍している団体が、GOEN食堂を運営しているという事実だけでも、大きな教化活動であったのではないかと考えております。

哲学カフェを通じた地域住民のウェルビーイングの向上

活動フィールド：大阪府高槻市 京都市内（大谷大学周辺）

代表者所属：
文学部哲学科

● 活動概要

本活動は、哲学カフェを通じて地域住民や学生間の哲学的対話を促進し、知的交流の場を提供することを目的としています。活動拠点として大学施設を利用し、地域や大学を超えた参加者の連携を目指しました。また、カフェフィロへの加入を通じて外部リソースを活用し、より幅広いネットワークを形成することを目指しました。

● 活動内容

● 哲学カフェの企画と実施 開催日・場所・対象者・問い

2024年10月17日（木）、アレグリア山手一番街キャンパス

対象者：福祉従事関係者 テーマ「福祉とは？」

2024年10月19日（土）、高槻地域生活支援センター オアシス会議室

対象者：センター利用者 テーマ「自分らしく生きるとは」

（2024年12月9日（月）FM大阪 「谷口キヨコ LOVE FLAP」出演）

2024年12月19日（木）京都信用金庫 「ジェネレーションコネクト」

対象者：応募者 テーマ「なぜ大人は「うっとうしく」感じるのか」

「なぜ人は考えるのか」

「お金で幸せは買えるのか」

「人はなぜ夢をもつのか」

1. 参加者：各イベントに地域住民や学生、計8～30名程度が参加。
（福岡や東京から来てくださった方も！）

2. カフェフィロを通じた外部連携の試み

カフェフィロへの会費を支払い、外部の哲学カフェ活動との連携を模索。

3. チラシ配布

大谷大学学園祭「紫明祭」では、本プロジェクトと団体の告知のために、ビラ配りや告知をメンバーで行った。



哲学カフェ実施後の様子

● 活動成果及び獲得した学び

地域連携室の職員の方々と協力しながら大学外で哲学カフェの実施を企画・立案からメンバーの協力のもと行なった。学内の哲学カフェ実施と並行し、月に複数回のペースで実施した。結果として、学生のなかでも本企画に対して関わったメンバーには、哲学が臨床とどのように結びつくのかについて思いを巡らせる機会になった。

準備段階では、対話の場を成立させるためのファシリテーター技術の研磨や、アンケート回収後の分析、報告連絡を行うためのNotionアプリの活用などの組織的な動きを可能にするためのツール利用を組織内で運用可能にした。途中、定例会議においてもときどきスケジュール管理と意志疎通の困難があったが、半年前の準備当初の想定よりも多くの方々に参加・賛同をいただいた。

また、参加者・運営者の意見の中には真摯に企画についての疑問を投げかけてくれるものも複数あり、開催を重ねるたびにブラッシュアップができていく実感を得られた。今後の課題は、哲学カフェというものを単なるイベントで終わらせないで、対話の場を地域の中で広げつつもその中で生きていくという倫理的なありかたの模索として、腰を据えて学生同士・地域住民としてのわれわれが話せる機会を増やしていきたい。

京都の街並みや施設を用いた映画制作及び学内での上映会

活動フィールド：大阪、京都、滋賀

代表者所属：

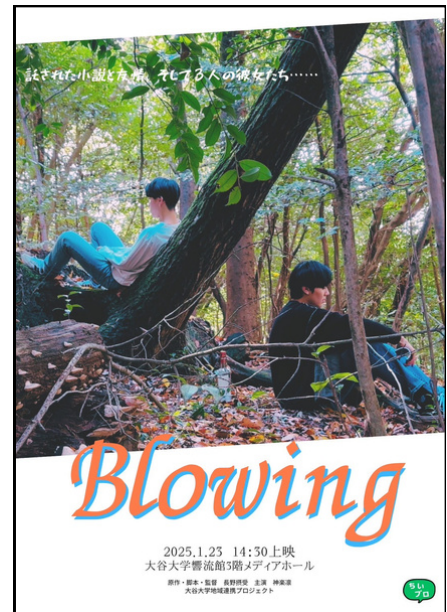
人文学研究科真宗学専攻

● 活動概要

映画制作を通して、学生だけでなく、地域の方々との交流を図り、学生には作品制作の醍醐味を感じてもらい、地域の方々には学生の活動を広く知ってもらうことを通して、大学と地域の交流を深める。
また、作品の上映を通して、観客に地域に対する興味関心を寄せてもらう。

● 活動内容

村上春樹『風の歌を聴け』からインスパイアされたオリジナルの脚本『Blowing』を用いて京都、大阪、滋賀の街並みやスポットで映画制作を行いました。キャストには、主演の神楽くんをはじめとして、小松くん、京都工芸繊維大学の長井さん、立命館大学の清水さん、大谷大学から香西さん、職員の野澤さん、関西学院大学からしんやくくんが参加しました。
また、祇園のbar「倫敦亭」の橋本さん、bar「或いは」の涼香さんにも参加していただき、「倫敦亭」とBa「LINKS」には撮影場所も提供いただきました。
主題歌も倉光さん協力のもと、完全オリジナルで制作し、長井さん作詞で歌っていただき、映画を象徴する主題歌「ぴりり」が完成しました。こちらの曲も、ギターやピアノパートでは、カリフォルニア大から同志社大へ留学でいらしていたミナトさん、エマさん、フォーリッシュさんにも協力していただいています。また、劇中挿入歌のハープもハープ奏者の速海ちひろさんに協力いただきました。



映画上映会ポスター



撮影現場での様子



撮影現場での様子



撮影現場での様子

● 活動成果及び獲得した学び

1月23日（木）に上映会を実施し、約20名の観客の方に映画を見ていただきました。上映会後に行ったキャスト陣も含めてのトークショーも30名ほど来客し、盛り上がりを見せました。

撮影に関しては、レイアウトの作り方・カメラワークをはじめとして、音声録音、照明の露光、機材運搬、撤収、スケジュール管理、撮影・録音データの管理など様々なセクションにおいて一つずつ漏れがないように確認する良い学びになりました。また、キャスト陣のスケジュール調整が今回の企画で最も難しいことでしたが、みなさんの協力もあり、日数はかかったものの、最後まで撮影できたことは本当に良かったと思います。

編集に関しても、音声やBGM、効果音についてEQやコンプレッサーのかけ方から、音量バランスなど動画制作について学べることができました。また、画面の色調に関してもCCやCGなど細部にわたる調整も学ぶことができました。これから、映画祭や動画コンテストへの応募、予告編のさらなる編集、またクラウドファンディングでの映画オリジナルサウンドトラックも制作予定です。